

町立
指江図書館

TEL0996-88-6500

「知っているようで
知らない日本語」
宮腰 賢 著

日常出会う日本語の疑問や用法を誤りがちな日本語をとりあげ、楽しく解説します。

町立
鷹巣図書館

TEL0996-86-1111

『触れる』だけで心と体が
軽くなるタッチングケア
外尾 幸恵 著

手でやさしく触れることで、ストレスをゆるめる「タッチングケア」。ちょっとした空き時間にできるので実践してみませんか。

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

長島文芸

Nagashima Bungai ながしまぶんげい

長島短歌会

空青く海も碧かり手をとられ潮の香重く白き灯台
市尾 操
歩くには自信なけれど坂上り振り返る灘風ぎて広
岩下 ち江
洗滌され罪を負ひ逝く人らの報子なきわが身に深
く応ふる
台風の逸れてしめりの足らぬ畑腰痛む夫が耕し初
米尾 和子
熱戦の後嗚咽する友を抱き球場を出づ球児の愛し
坂之下典子
燃ゆるごときご来光に今出会ひたり仏花探して丘
に登れば
中山タマエ
卒然と来し孫ありて御供す自由のきかぬわが身哀
しむ
浜田美代子
行く道の芽生に育つ頬白は昨夜の風雨に堪へしや
否や
浜畑 松枝
わが好みわれよりも知る孫娘よき夏服を選びくれ
松元 睦子

明神俳句会

遣唐使漂着の島銀河濃し
淵脇 護
球児らの歓喜の余韻夏終る
関 佳代美
秋初め子は新調の皮の靴
白男川孝仁
砂浜の足跡くずれ夏終る
山寄加代子
近づきし火星呑み込み大花火
大堂 正弘
修繕す父の風鈴鳴りにけり
脇田 武志
睡蓮よ母との別れ断ち切れず
肥後 広行
遠花火思ひ出の丘夫思ふ
二階堂恵子
お向かいもとなりも寝たり天の川
二階堂妙子

創世短歌会

原爆忌平和を祈る人の波
坂口 静子
寝転べばこぼれ落ちそな天の川
大堂 早苗
台風の異例尽くしの南下かな
迫口 君代

蜘蛛の子の巣をかけている軒先をすかして徐々に
月上り来る
竹之内重信
耳遠くなりたる我は言葉なくにこにことするばか
りとなれり
宮元 司
子の運転なせる車の助手席に深々と坐す会食終えて
村上 義彦
娘の古稀の膳に坐りて言葉なし頼つてばかりはも
ういられない
石原百合子
引越しのタオルくれたるお隣りの新婚夫婦らこの
頃不仲
大塚 洋子
病院のシングルベッドに過ごししが帰りてうれし
己がベッドは
野村 益信
肩の荷を下ろすと言うは寂しさの伴うものぞ今夜
もひとり
山下 学

一般作品

「短歌」
セミ叫ぶオンガメジヨに捕えられ哀れ木の上手の
み合わす
小林 貢
もの憂げな蝸鳴きつ夕暮れはふと昔にぞ立ち帰る
なり
小林 如月
大山の夕焼け見つつ過ぎゆくは螢を追った故郷思う
エラーして負けたる試合忘れんと飲む酒やすやす
とは酔はざりし
中飯屋辰子
何事も我れ事なるよ我れ成すや頑張成れば事納ま
るや
母木 良平
「俳句」
町田 末則
気を病みて雲の峯少し崩れがち
宗方 清明